



＜特別寄稿＞

## 中欧五都巡りの旅(下)

都市計画課 松下直司

・ウィーンにて

ウィーンは、人口167万人のオーストリアの首都であり、クラシック音楽が盛んなことと近くにドナウ川が流れていることにより、音楽と自然がマッチした美しい街です。

観光は、定番のリング（旧城壁）とその周辺施設であるシェーンブルン宮殿、シュテファン寺院、ベルヴェデーレ宮殿を回りましたが、ベルヴェデーレは宮殿内の見学が組み込まれていなかったため、今回はどうしてもクリムトの「接吻」を生で見たかったために、午後の自由時間にトラム（市電）を乗り継いで見に来てしまいました。その際、添乗員さんに例の共通切符の一日券が有利ということなので、オペラ座の前のチケット売り場で「ワンデーチケット ツーオーケー」と言って購入したところ、おつりと片道切符を渡されました。違いに気づき交換を求めたところ、女性の担当はおつりの返却と一日券との差引きの計算が出来ないとみえてえらく時間がかかってしまいました。前にもローマで経験しましたが外人は計算が苦手みたいです。

ちなみに、ヨーロッパの各都市の公共交通の出札口や検札はほとんどありませんが、無賃乗車して捕まると何倍もの運賃を請求されるそうです。もうひとつのエピソードとしては、オペラ座の前でスリにあったことです。ローマ、パリで同様なことを経験しましたが、特に日本人はよく狙われるそうですので注意してください。

公共交通機関は、地下鉄、トラム、バスがありますが、地下鉄の走っていないエリアを市電とバスがカバーしているようになっています。リングには循環するトラムとバスが走っていて便利です。

世界遺産については、歴史地区として旧市街地に様々な建築様式が現存することと音楽の都として欧州文化史上重要な役割を果たしているということが評価されて、2001年に登録されました。

夜には、当地でも有名なホイリゲに行きました。正式にはワインの作り酒屋が自家製のワインを売ると簡単な料理を庭で提供するというのが建前だそうですが、観光客目当てに営業する店もあるそうです。ちなみにホイリゲとは「今年の新酒」をさすようですが、店頭には松の枝をつるす風習があります。日本酒の造り酒屋につるす杉玉と同じようなことだと思います。

ウィーンについては、もっともっと紹介したいものがありますが、紙面の制約もありますので名前だけにしたいと思います。著名な音楽家の墓がある中央墓地・毎年元旦に演奏会（ニューイヤーコンサート）が行われる楽友協会の「黄金のホール」・映画第三の男で有名なブラッター遊園地などがありますが、直接、来てみて見学してください。また、ウィーンについては「つどえ〜」第19号に当課の伊藤さんがコラムで紹介していますので、ぜひご覧になってください。

・ドレスデンにて

ドイツ連邦共和国のザクセン州の州都でエルベ川の谷間に位置する人口約50万人の都市であります。2004年にドレスデンを中心としたエルベ流域が歴史的建造物の残る文化的景観が評価され「ドレスデン・エルベ渓谷」として世界遺産に登録されましたが、市街地の交通量の増加に対応するために橋を建設する案が検討されているようです。それに対してユネスコの世界遺産委員会から建設すると登録の取消し（危機遺産登録：顕著で普遍的な価値が認められなくなる）を言われているそうです。そのために市議会



（クリムトの接吻が展示されているベルヴェデーレ）



（ホイリゲの電光掲示板 屋外広告物？）



（新橋を架けようとしているエルベ川）



では橋建設の入札を差し止めたそうです、世界遺産登録後も大変だという事例です。

次に、ラファエロの「システィーナの聖母」で有名なツヴィンガー宮殿の一角にある国立美術館のアルテ・マイスターに入館しましたが、この絵画以外でも鑑賞する価値のある名画（レンブラント・ルーベンスなど）がいっぱいありました、美術館専用のガイドさん（たぶん芸術員）が案内してくれましたが、日本に住んでいたことがあるという人で関西弁混じりの日本語で、裏話を交えてのエピソードは、たいへんおもしろいものでした。

さらに外に出て歩いていくと、日本でもよく公演が行われる「ドレスデン国立歌劇場管弦楽団」で有名なオペラ座（通称：ゼンパー・オーパー）がありました、新古典主義建築の代表作として知られておりますが、演奏会が毎週行われていて、地元の関心も高くよく聴衆に来るそうです。

さらに進んで行くとアウグスト通り沿いの外壁には歴代の君主たちを描いたマイセン製の壁画「君主たちの行列」がほぼオリジナルの状態で見学ができます。



（マイセンのタイルで製作された「君主たちの行列」）

#### ・プラハにて

チェコ共和国の首都で人口120万人を有し、市内中心部にヴルタヴァ川（独語：モルダウ）が流れる古い街並みと建物が数多くあるチェコ最大の都市であります。歴史的には神聖ローマ帝国やハプスブルク家の支配をへて1918年にチェコスロヴァキア共和国成立とともに同国の首都になりました、さらに、1993年にチェコスロヴァキアが分離してチェコの首都になっております。

世界遺産には、歴史地区としてプラハ城、カレル橋や旧市庁舎が1992年に登録されております、特に有名なのが旧市庁舎の天文時計です、1時間ごとにからくり人形が動く仕掛けになっており見物する観光客で混雑しています。さらに聖ヴィート大聖堂にはチェコで有名な画家であるアルフォンス・ミュシャのステンドグラスが見られます、ミュシャ独特の装飾ガラスがとてもきれいでした、ご存じの通りステンドグラスは内からしか見られませのでこの教会でも注意して見学してください。



（クルーズから見たカレル橋）

余談ですが、皆さん「プラハの春」という言葉をご存じかもしれませんが、1968年に起こった改革運動のことを指しますが、日本では春江一也作の小説「プラハの春」の方が有名ではないかと思えます、革命当時、チェコスロバキア日本大使館勤務だった著者が書いたものですが暇があったら読んでみてください、関連して「ベルリンの秋」「ウィーンの冬」も出ています。

さらに、チェコの話についてですけど、皆さんはバドワイザーというビールをご存じですか？世界の販売量を誇るアメリカの会社が販売するものですが、実はチェコのブドヴァイス（Budweis）を借用したものとわかっております、今回本家のものを飲んでみましたが大変おいしいビールでした。

#### ・おまけ チェスキー・クロムロフにて

最近のテレビでも紹介された都市ですが、写真のとおりオレンジの屋根がたいへん美しい街並みです、1992年に世界遺産に登録されましたが、城からの景色が最高でした。この写真も絵はがきではなくカメラで撮ったものです。

ぜひ訪れてみる価値のある都市です。



（チェスキー・クロムロフ城から眺めた郊外）

#### ・おわりに

きっかけは、仕事での欧州視察研修でしたが、それ以来「ヨーロッパかぶれ」になり毎年出かけるようになりました、これを読んでいただいた方々皆さんにぜひお願いしたいことがあります、なるべく若いうちに海外旅行に行かれるように望みます、すばらしい経験が出来ると思います。その時は「つどえ〜る」に投稿をお願いします。